

## 国際連携食品科学技術専攻(修士)における グローバル産業人育成

岐阜大学応用生物科学部  
岐阜大学・インド工科大学グワハティ校  
国際連携食品科学技術専攻

海老原 章郎



開発が遅れているインド北東部  
その中心都市がグワハティ

グワハティの市場  
冷蔵されず店頭に平積み  
➡ 食品加工に開発の余地あり

アッサム独自のバナナ  
子供に飲ませると病気しないとのこと  
➡ 機能性食品開発の潜在性あり

## 日印が協力してグローバル産業人を育成をしよう！



岐阜大学・インド工科大学グワハティ校  
国際連携食品科学技術専攻（修士課程）

定員10名（日：5名、インド：5名）  
5年後には50人、10年後には100人  
からなるネットワークができる

★ 持続可能な解決法  
による産業振興



## (1) 修士課程の国際共同学位プログラム（高度専門職業人養成）



岐阜大学・インド工科大学グワハティ校  
国際連携食品科学技術専攻（修士課程）

定員10名（日：5名、インド：5名）

## (2) 学生は両大学で共通のカリキュラムを履修、国際共同研究を実施

 岐阜大学

応用生物科学

×

化学工学

地域開発指向

食品科学と技術に関する  
相乗的な教育プログラム

どちらから入学しても  
同じカリキュラムを履修

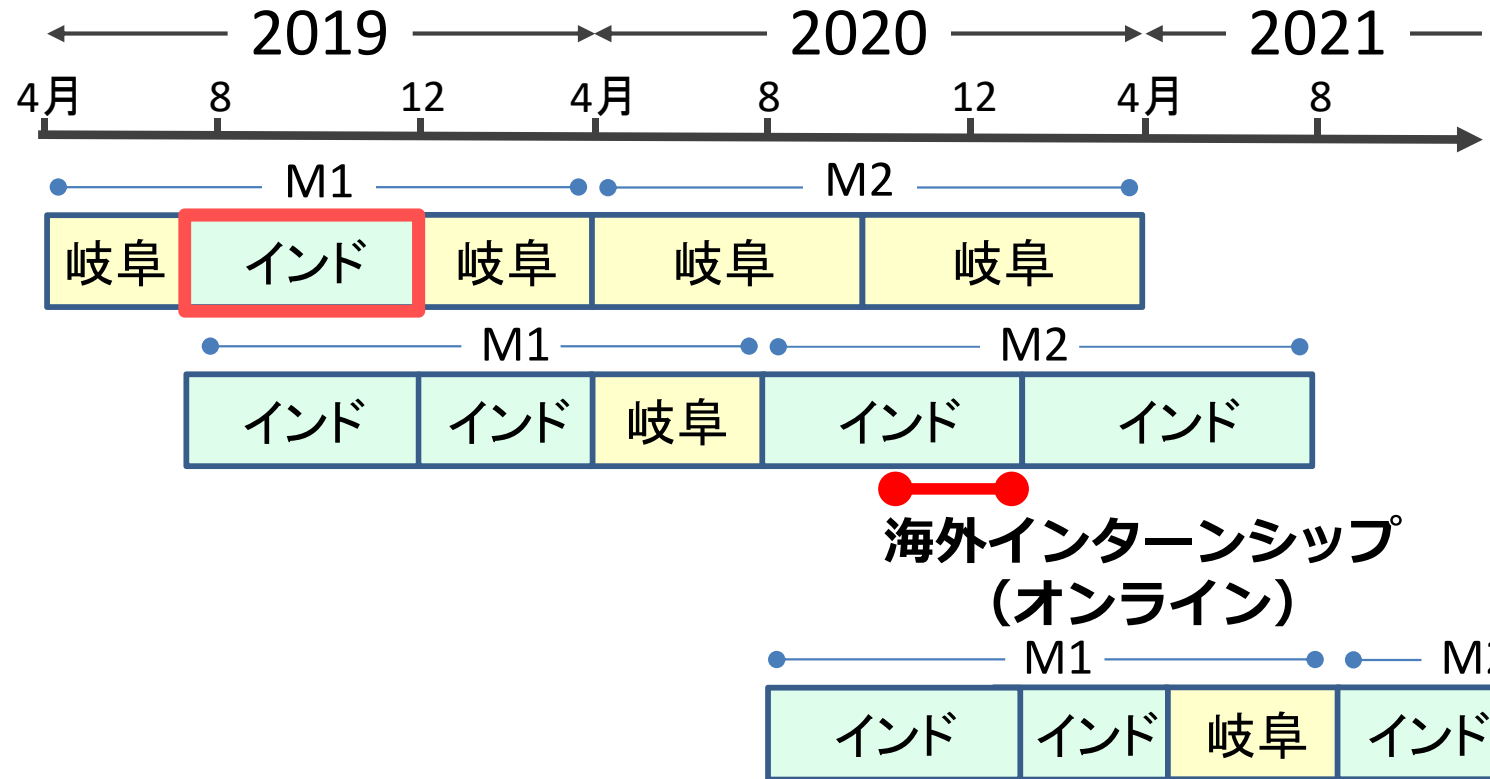


インド工科大学  
グワハティ校



ダイバーシティに富む社会そして激しい競争社会  
を生きるインド人と共に学ぶ経験

入学年度	入学大学	入学者
2019	 岐阜大学	4名
2019	 GATECH	4名
2020	 岐阜大学	0名
2020	 GATECH	3名
2021	 岐阜大学	志願者あり
2021	 GATECH	来年入試



## 本日の話題

- ・ 日本人学生のインド留学 (コロナ前)
- ・ インド学生の海外インターンシップ (コロナ後)



日本人学生 4名  
 4月：岐阜大入学  
 7月末：インド入学



同期のインド学生と連絡先交換

### 留学に係る費用

- ・ 予防接種
- ・ 渡航費
- ・ 宿泊費用 その他

**日本学生支援機構 2019年度  
 海外留学支援制度（協定派遣）  
 の支援を受けました**

全員、単位を取得できた！（インド工科大学の大学院生としての力がある）

講義名	単位数	講義形態
先端食品加工学	3	講義
膜工学	3	講義
生活環境管理と農業技術【地域開発指向型】	3	講義と実習
修士論文研究	4	実験
デザイン思考実践演習	1	演習
インターンシップ	3	演習と実習



インドの地域開発を指向する講義  
「新しい方法・コンセプト」を試す



インドの同級生とともに勉強中

- 学生1 インドの低所得層と高所得層の生活の様子を見る機会があり、日本と**生活の質が大きく違うと実感**した。そこで、日本の技術を提供するもしくは現地の雇用を生むような事業を立ち上げることで、**生活の質を向上する仕事がしたい**。実際に話してみても初めて、彼らが暴力に怒り、平和を願い、優しい心を持っている、自分と何も変わらない人間なのだとわかった。
- 学生2 インドで経済的な成長を肌で感じ、日本企業の技術や製品を海外の企業や市場に繋げるメーカーや商社の営業職に興味を持つようになった。**貧困問題や環境問題**などを目の当たりにし、企業や自分自身の利益を追い求めるだけでなく**社会課題の解決を意識**していきたいと強く思うようになった。インドでは**自分から交渉をしないと物事が動かない**ことが多く、何事においても人との対話を重視するようになった。
- 学生3 日本とは異なる価値観、考え方を持つ人と関わる中で、**自身の視野が広がった**。日本国内だけでなく、海外で活躍する企業にも興味を持つようになった。インドに留学する中で、「**インド人の柔軟な発想力**」にとっても驚かされた。
- 学生4 実際に現地に渡り経験することで、将来は国内だけでなく、**海外と関わるような仕事**にかかわりたいと強く思うようになった。**自分（達）の常識が世界でも常識とは限らない**ということを痛感させられた。

- ・ **生活や文化の違い**を実感
- ・ 視野が広がり、**貧困問題や環境問題**に自然と気づく  
➡ 現地を訪れる留学の意味

学生1 インドの低所得層と高所得層の生活の様子を見る機会があり、**日本と生活の質が大きく違うと実感**した。そこで、日本の技術を提供するもしくは現地の雇用を生むような事業を立ち上げることで、**生活の質を向上する仕事がしたい**。実際に話してみても初めて、彼らが暴力に怒り、平和を願い、優しい心を持っている、**派遣会社（技術系）**だとわかった。

学生2 インドで経済的な成長を肌で感じ、日本企業の技術や製品を海外の企業や市場に繋げるメーカーや商社の営業職に興味を持つようになった。**貧困問題や環境問題**などを目の当たりにし、企業や自分自身の利益を追い求めるだけでなく**社会課題**いきたいと強く思うようになった。インドでは**自分から交渉をしない**ことが多く、何事においても人との対話を重視するようになった。

**JETRO**

日本貿易振興機構(ジェトロ)

学生3 日本とは異なる価値観、考え方を持つ人と関わる中で、**自身の視野が広がった**。日本国内だけでなく、海外で活躍する企業にも興味を持つようになった。「**インド人の柔軟な発想力**」にとっても驚かされた



**太陽化学株式会社**  
TAIYO KAGAKU

学生4 実際に現地に渡り経験することで、将来は国内だけでなく、**海外と関わるような仕事にかかわりたい**と強く思うようになった。**自分（達）の常識が世界でも常識とは限らない**ということを痛感させられた。

博士課程進学

- ・日本の貿易振興を担う政府機関
- ・インド進出中の日本企業





2020.11.27 SDGs勉強会資料より

## 岐阜大学グローバル推進機構・地域国際化推進部門のネットワーク

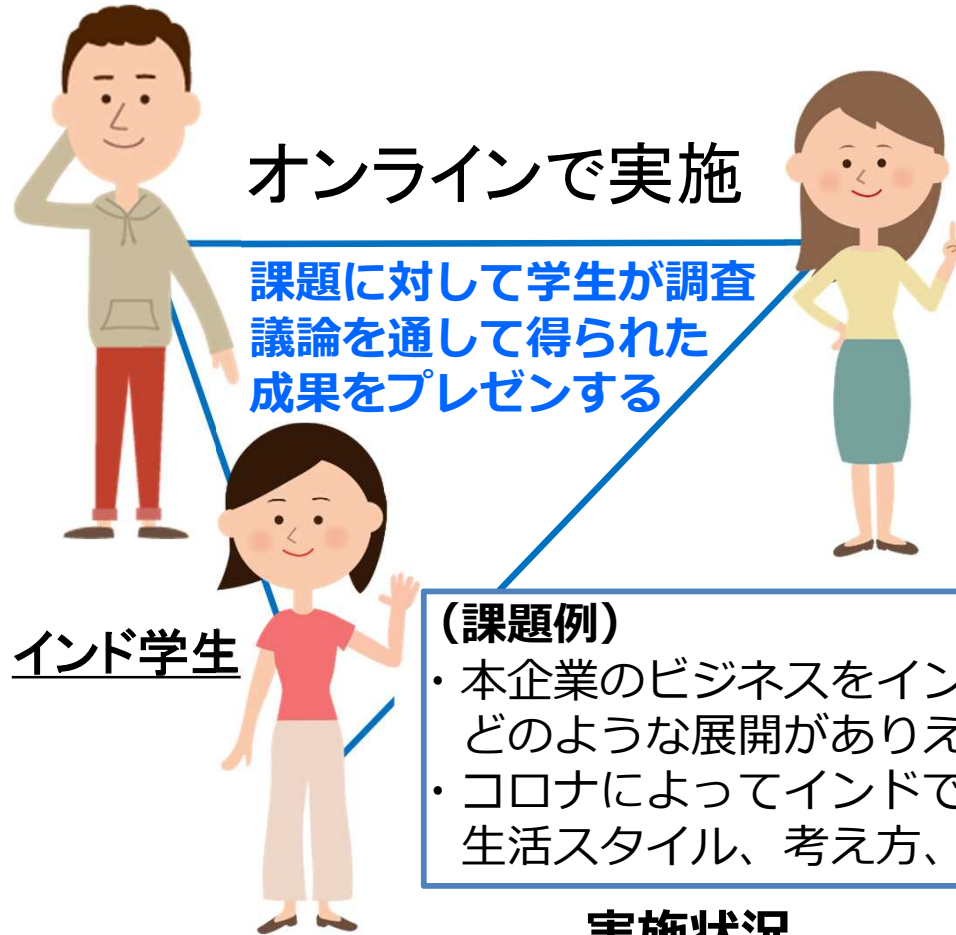


産・官・学・金

ジョイントディグリー



### インド進出検討中の日本企業・政府機関 × JDインド学生



## オンラインで実施

課題に対して学生が調査  
議論を通して得られた  
成果をプレゼンする

## 日本企業等の受入担当者

課題を学生に与える  
調査結果を学生とともに議論

大学は閉鎖  
学生は自宅待機 (インド各地) インド学生

### (課題例)

- ・ 本企業のビジネスをインドで展開すると仮定したとき、どのような展開がありえるか？
- ・ コロナによってインドでどんな変化が起こっているか？  
生活スタイル、考え方、テクノロジー、健康意識など

## 実施状況

①企業 (2名受入)

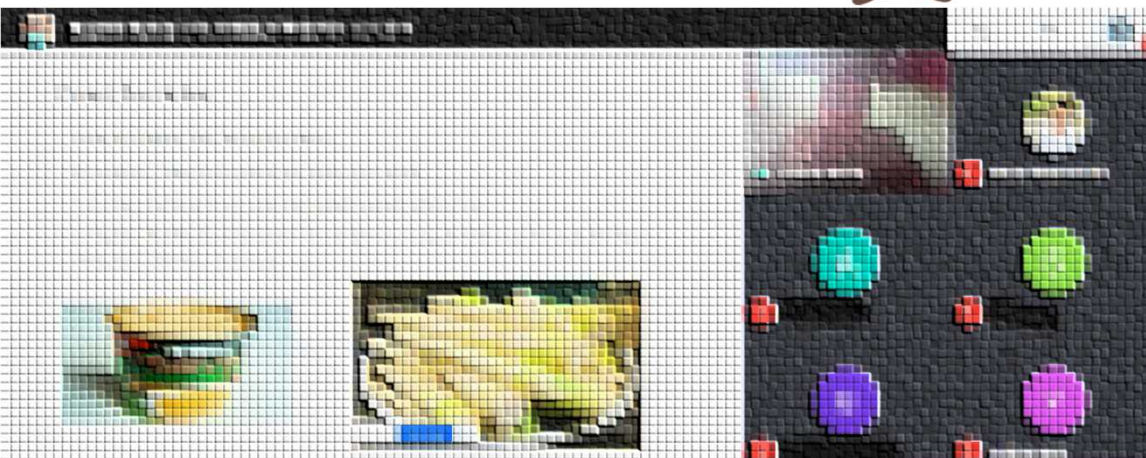
②政府機関 (2名受入)

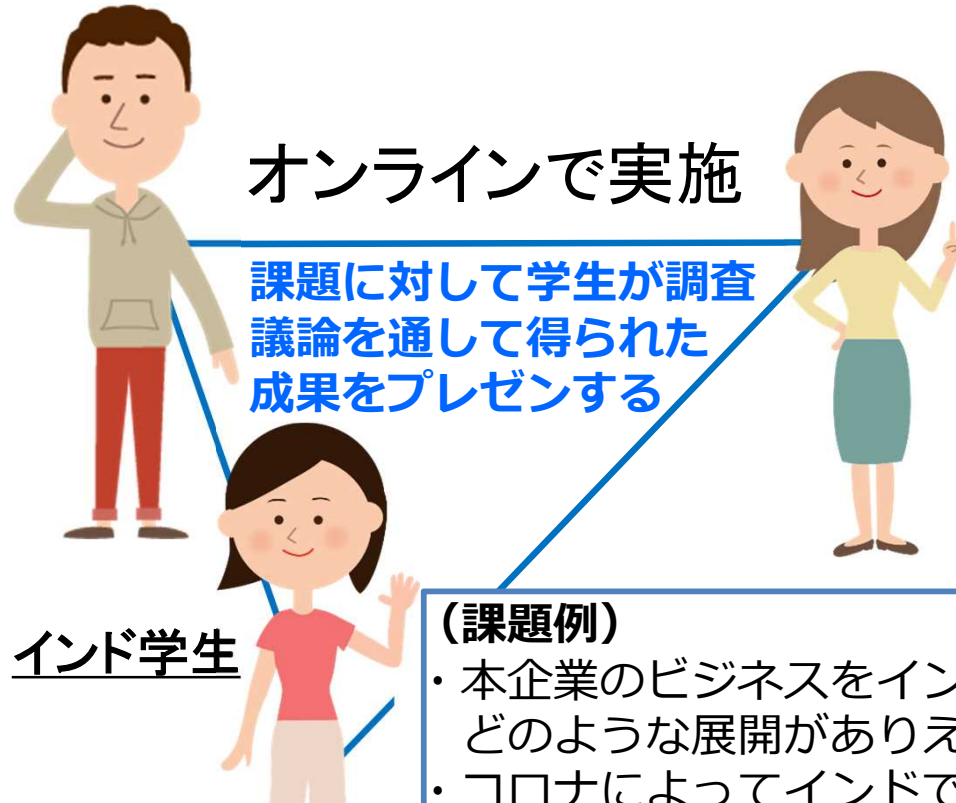
### ★受入側のメリット

インドの最新動向を知る  
新ビジネスモデルの検討

### ★学生のメリット

課題解決法を産業人と共に探る実践経験





## オンラインで実施

課題に対して学生が調査  
議論を通して得られた  
成果をプレゼンする

## 日本企業等の受入担当者

課題を学生に与える  
調査結果を学生とともに議論

大学は閉鎖  
学生は自宅待機 (インド各地) インド学生

### (課題例)

- ・ 本企業のビジネスをインドで展開すると仮定したとき、どのような展開がありえるか？
- ・ コロナによってインドでどんな変化が起こっているか？  
話スタイル、考え方、テクノロジー、健康意識など

## 受入企業から頂いたメール

12月18日の最終プレゼンにご参加いただけたとの事、ありがとうございます。  
**学生達は我々の期待を遥かに超えるOutputを出してきておりますので、ご期待下さい。**  
よろしくお願いいたします。

## 実施状況

①企業 (2名受入)

②政府機関 (2名受入)

### ★受入側のメリット

インドの最新動向を知る  
新ビジネスモデルの検討

### ★学生のメリット

課題解決法を産業人と共に探る実践経験



Food Processing Investors meet organised by NERAMAC

BY VAS INC ON FEBRUARY 4, 2018

BUSINESS

HT Bureau

## インドでの新聞報道

Guwahati, Feb 3: North Eastern Regional Agricultural Marketing Corporation Ltd (NERAMAC) organised a Food Processing Investors Meet on Friday at IIT Guwahati.



二国間共同セミナー(2017年度)  
「北東インドにおける生物資源  
利用の将来構想」(IITGで開催)



- ・高い専門性と地球規模の問題意識
- ・持続可能な解決法をデザインする力
- ・柔軟で精神的にタフな人材



日本企業と北東インド  
地域商工会との交流  
(2017年度)

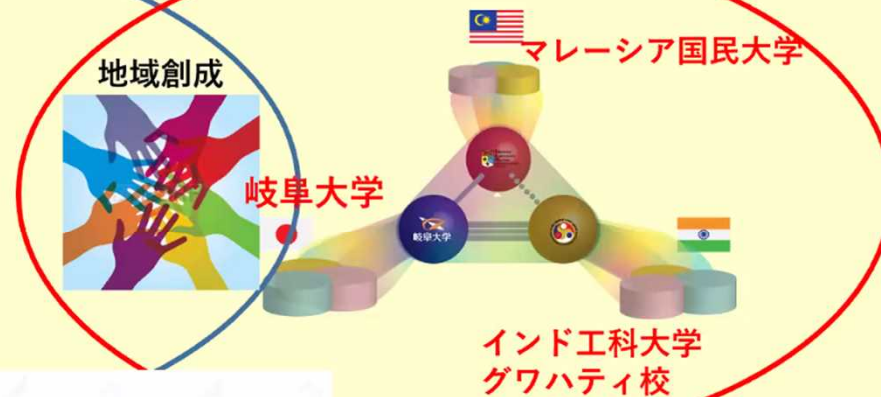


北東インド地域商工会  
代表団来日(2019年度)

産・官・学・金



ジョイントディグリー



ウェビナーでの研究  
交流(2020年度)



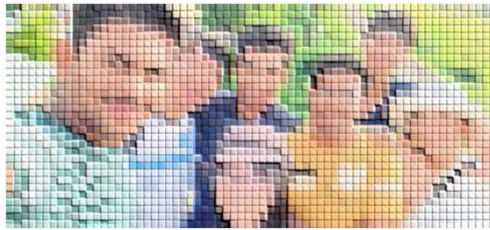
緊密な大学間連携



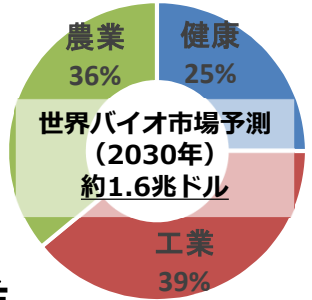


**JDプログラム（修士課程）**  
定員10名

5年後には50人  
10年後には100人のネットワーク



**JD修了生のつながりが  
イノベーション創出の鍵に！**



**バイオエコノミー推進  
人材として期待**

OECD (2009年)  
The Bioeconomy to 2030

